

令和7年度多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織名	③構成自治体等	④事業名	⑤申請額	⑥事業内容
1	R7～R11 (5年間) 1年目	TOKYOサステナブルツーリズム連絡協議会	青梅市、あきる野市、特定非営利活動法人リープノートレイスジャパン	TOKYOサステナブルツーリズムプラットフォーム構築事業	5,000,000	【目的】 西多摩のアウトドアビジネスの担い手が主体的に環境配慮型の持続可能なプログラムを開発し、観光の閑散期となる季節に、企業研修(多摩地域に立地する大企業、都心の企業)、子ども向け教育(公立校や通信制学校との連携等)、富裕層にあたるインバウンド向けの受入れを推進していく。観光産業としての確立、自然との共生、地域活性化につながる取り組みを推進する、民間の中間支援組織を立ち上げることで、事業者を育成する研修制度や認定制度をつくり、自走可能なプラットフォームを構築する。 【内容】 ○地元事業者に対する調査 ○東京都内外の企業・学校へのニーズ調査 ○関心のある企業・学校のネットワーク交流の場 ○旅行会社と連携したモニター研修の実施 ○観光事業社の研修・認定制度の構築 ○プラットフォームとなるサイトやパンフレットなどの広報事業 ○誘客やPR活動 【実施場所、対象者、参加予定人数】 ○実施場所: 青梅・あきる野を含む秩父多摩甲斐国立公園などを有する地域 ○対象者および対象団体: 研修プログラムの受入れに興味がある団体・事業社、協力・支援を行う観光関連団体等 ○参加事業社30社および団体等10団体、宿泊、飲食などの関連する事業社10社 【目標】 ①協議会準備委員会の立ち上げ ②50社以上の地元事業者に対する調査を行い、キャパシティを把握する。 ③30社以上の企業・学校へのニーズ調査を行い、需要を把握する。 ④20社以上、40名以上のLNTの研修を行い、周知啓発を図る。

令和7年度多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織名	③構成自治体等	④事業名	⑤申請額	⑥事業内容
2	R7～R11 (5年間) 1年目	タマリズムプロジェクト実行委員会	多摩市、稲城市、八王子市、日野市、町田市	タマリズムプロジェクト	6,000,000	【目的】 南多摩5市及び京王観光(株)、多摩大学総合研究所は、令和4年度から令和6年度まで「多摩地域マイクロツーリズム実行委員会」として連携し、地域内交流人口の増加と地域経済への貢献を目的に、「観光まちづくり」をテーマとした実証実験などの事業に取り組み、連携自治体以外からの参加大学、企業も増えるなど、一定の成果を得た。 一方で、当該事業では、「観光まちづくり」をテーマにしていたことで、参加者による捉え方が抽象的になり、実装化に繋がりにくいという課題があった。また、必ずしも連携組織を構成する自治体の観光プロモーションに繋がらないという課題があった。 そこで、本事業では、令和6年度までの事業の成果である産学官連携を土台としつつ、新たに設定する「広域観光まちづくり」「各市の観光まちづくり」のテーマのもと、具体的な課題を提示し、学生のフィールドワークや実証実験を通じて、郊外型都市におけるスポーツや自然などの観光資源を活用したイベントやSNS等での発信を行い、構成自治体の観光プロモーションに資する事例を創出することを目的とする。 【実施方法】 新たに「広域観光まちづくり」「各市の観光まちづくり」を基本テーマとした学生対象のコンテストを実施。各自治体の観光課題ならびに構成自治体の広域観光課題を大学生等から成るチームからアイデア等を公募し、審査する。令和8年度以降、審査員は連携組織を構成する自治体職員と専門家等が務める。 審査通過した企画についてフィールドワークや実証実験を実施し、構成自治体の観光プロモーションに繋げていく。年間の取組の最終イベントとして、企業等を対象としたドラフト会議を実施し、交渉成立した学生と企業等が翌年度以降、実装化していけるよう支援する。また南多摩5市のフィールドを学生のアイデアで企業と共に活性化していくよう発展させていく。 【目標】 ①応募件数(企画数):30件 ②マッチング数:10件 ③企業参加数:30社 ④自治体プロモーション数:50件
3	R6～R10 (5年間) 2年目	多摩地域インバウンドガイド連絡協議会	立川市、国立市、国分寺市、一般社団法人立川観光コンベンション協会、特定非営利活動法人国立市観光まちづくり協会、一般社団法人こくぶんじ観光まちづくり協会	多摩地域インバウンド受け入れ拡大のためのガイド人材養成・育成事業	5,000,000	【目的】 ○「多摩地域」「立川」のファンを増やすことで、地域のにぎわいや回遊性の創出や観光消費額の増大につなげ、持続可能な地域社会に寄与する。 ○シビックプライドの向上を図る。 ○質の高い有償ガイドを育成することにより観光産業の収益化を目指し、事業期間終了後の民間による自走化を実現、地域経済へも寄与する。 ○近隣大学の多摩地域への関心度向上を図る。 【内容】 ○ガイドの発掘 ○ガイドの研修 ○旅行会社と連携したツアーの造成 ○ガイドのあっせん ○大学との連携 ○紹介・登録サイトやパンフレットなどの広報事業 ○海外で開催される旅行博でのPR活動 【実施場所、対象者、参加予定人数】 ○実施場所:立川市・国立市を含め主に多摩地域西側の市町村 ○対象者及び対象団体:語学が堪能でインバウンドガイドに興味がある方、観光関連団体等 ○参加予定人数及び団体等100人(インバウンドガイド養成研修等参加人数)、10団体(協議会構成団体)、50施設(協力宿泊施設) 【目的】 ①20人以上のガイド候補者を発掘 ②モニターツアーの実施 ③ツアー商品の販売を開始

令和7年度多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織名	③構成自治体等	④事業名	⑤申請額	⑥事業内容
4	R6～R10 (5年間) 2年目	多摩北部都市 広域行政圏協 議会	小平市、東村山 市、清瀬市、東久 留米市、西東京 市	多摩六都の 魅力発掘・ 発信プロ ジェクト	5,000,000	【目的】 多摩北部地域(多摩六都)は、西武鉄道沿線に位置する地理的、歴史的につながりの深い地域で、75万の人口を擁している。30歳代・40歳代を中心に人口流入傾向にあるが、減少の地域もあり、高齢化も進んでいる。多くの人々に来ていただくことで、まちの賑わいを保ち、発展していくことが可能となることから、「選ばれるまち」になるよう5市が連携して観光面から取り組んでいく。多摩六都につながりのある様々な人々がシビックプライドを高め、誇り・愛着・共感を持ってこの地域をより良い場所にしていくことを目指す。 【観光のテーマ】 都心から1時間圏内かつ緑が多く生活しやすい環境にあるが、名所が少なく、この地域の魅力は一般に浸透していない。そこで、「多摩北部都市広域行政圏」の将来像「みどりと生活の共存圏」をベースに、「緑・公園」、「都市農業」、「暮らし」をテーマとする。 【内容】 ○多摩六都の魅力の発掘・発信 多摩六都の住民に5市それぞれの魅力を浸透させるとともに、外部に発信する。2年目の令和7年度は、動画作成を開始する。また、前年度に作成した観光冊子を引き続き活用していく。 ○イベント等を通じたシビックプライドの醸成 多摩六都の魅力である公園を活用した市民参加型のイベント等を開催することで、地域の課題を市民や事業者と共有し、市民等による魅力発信につなげることを目指す。2年目の令和7年度は、公園を活用した取組の先進事例や課題を調査するとともに、今後のイベント等実施に向けた計画を策定していく。また、助成期間終了後の展望を含めた事業設計を検討する。 【実施場所、対象者、参加予定人数】 実施場所: 多摩北部地域(小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市の5市) ターゲット: ○多摩六都の住民 :シビックプライドを持ち、住み続けるとともに発信を期待 ○ファミリー層とその予備軍(若者・子ども) : 今後の流入を期待 【目標】 ◇プロジェクトとその関連Webページの表示件数 : 18,000件 ◇成果物(動画)を発信する。表示件数: 300件 ◇冊子の活用: 回遊性イベントのアンケート回答者の半数が認知・活用

令和7年度多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織名	③構成自治体等	④事業名	⑤申請額	⑥事業内容
5	R6～R10 (5年間) 2年目	福生・昭島発！ 地酒と深層地下水の魅力を広める協議会	福生市、昭島市、 福生市観光協会、一般社団法人昭島観光まちづくり協会、株式会社グッドライフ多摩	福生・昭島発！地酒と深層地下水の魅力を広める事業	6,400,000	【目的】 福生市の地域資源である「地酒」と昭島市の地域資源である「深層地下水」の魅力発信を通じて、地域資源が育まれた背景や歴史、文化とともに「食」を共通項とした近場で楽しめるツーリズムを造成し、地域消費額の増加を目指す。 また、隣接する2市が、交通の要衝でもある拝島駅を基軸としたツーリズムを調査・研究することで、福生や昭島への流入人口増加の機会創出や経済波及効果の向上を目指し、地域経済の活性化を図る。 【内容】 モニターツアーの結果を検証し、実売につなげていくとともに訴求効果を高めるために旅行会社等と接触し、販路を広げていく。また、不特定多数の誘客促進、周遊のきっかけづくりとなるような事業を構築する。さらに、前年度検討した方向性、ボリューム感に則り、若者のアイデアソンを実施していく。 (1)地域資源の磨き上げによる魅力発信 拝島駅を拠点として、福生や昭島への流入人口を増やすためのツーリズム造成を行う。前年度に実施した地酒・深層地下水をキーワードとしたモニターツアーの結果を受け、実際に販売する商品としてブラッシュアップを行う。 (2)若者の力を活用し福生・昭島の新たなファン層を獲得 地酒・深層地下水をキーワードとした若者によるアイデアソンによって、福生や昭島に訪れたいと思わせるような新たなアイデアの実装に向けて、検証を行う。 【目標】 ①2以上のルートで旅行商品化 ②若者アイデアソンから得られた知見の事業化に向けてブラッシュアップを行い、事業計画化する
6	R5～R9 (5年間) 3年目	福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト協議会	福生市、羽村市、瑞穂町、福生市観光協会、一般社団法人羽村市観光協会、瑞穂町観光協会	福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト事業	8,500,000	【目的】 2市1町は往来もスムーズにできるコンパクトなエリアであり、そのエリア内で味わえる《体験》《経験》をテーマとして都心部や近隣県に住む方々をターゲットに、気軽に行ける観光地として、地域資源の再発見や既存コンテンツの磨き上げを行いながら2市1町の魅力を結ぶルートを満喫するツアー造成やサイト構築等を行い連携自治体の観光資源の魅力発信と新たな交流人口を獲得し、同時に域内事業者の観光産業や誘客に関する育成も目指す。 【内容】 ①付加価値のついた新規コンテンツの造成 ターゲットに合わせて既存観光資源とは別に新規コンテンツの作成を行う。新規コンテンツを作成するに当たり、専門家にコーディネートいただくことで新たな観光資源を生み出していく。 ②観光を推進するための観光ガイドマップの作成 前年度作成したマップをベースに構成自治体の観光情報、3市町を周遊するコースのガイドマップを作成する。その後、交通事業等と連携し、ターゲットに向けたPRを行う。 ③3市町を効率的に周遊するための予約導線の検討 来訪者に3市町を効率的に周遊していただくよう予約が同一サイト等でできるよう検討し、次年度の構築に向けて試験的に導入する。 【目標】 ①ターゲットに合わせた新規コンテンツの造成し、新たな観光資源を生み出す。 ②観光を推進するための3市町を周遊するコースの観光ガイドマップを作成し、ターゲットに向けたPRを行う。 ③3市町を効率的に周遊するための予約導線の検討を行う。

令和7年度多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表
(観光振興連携活動)

NO	①事業期間	②連携組織名	③構成自治体等	④事業名	⑤申請額	⑥事業内容
7	R4～R8 (5年間) 4年目	北多摩縄文連 合	調布市、東村山 市、国分寺市、国 立市、西東京市	北多摩縄文 の里	2,202,624	【目的】 文化財行政に関しましては、国も文化財を保存から保存と活用へと政策を変換しています。 また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録される等、今、縄文に注目が集まっています。北多摩地区にも、国の重要文化財の指定を受けている縄文の貴重な遺跡、出土品が存在します。 そこで、貴重な縄文の遺跡を持つ市で連合をくみ、縄文の魅力・歴史的意義をPRし、地域振興及び広域観光を推進します。 【内容】 縄文時代の遺跡や遺物の保存や活用について意見交換をおこないます。 連合市間で縄文に関する展示、講演会、体験などの広報等で協力を図ります。 地域の縄文のPR、地域観光に関するパンフレットを作成し、スタンプラリー等で回遊を図ります。 【実施場所、対象者、参加予定人数】 スタンプラリー 5市で実施 対象者 博物館の来館者(メインターゲットは高齢者層) 参加者は600名 【目標】 スタンプラリー参加者(2市以上を回った者)400名
8	R3～R7 (5年間) 5年目	東京アドベン チャープロモ ーション協議会	青梅市、奥多摩 町、青梅市観光 協会、奥多摩観 光協会、 御岳山観光協 会、青梅商工会 議所、東日本旅 客鉄道八王子支 社	東京アドベン チャープロモ ーション事 業	1,000,000	【目的】 新規作成エリア観光PR動画の更なる発信 【実施内容】 ＜SNSを活用した認知度の向上＞ ● 青梅市・奥多摩町の観光情報を総合的に発信するアカウントを設け、インスタグラムに観光施設や季節の魅力、地域特産物、イベント情報などの質の高い情報をリアルタイムに発信する。 ● 都心のファミリー層への影響力の高いインフルエンサー等を活用することで、投稿した情報がターゲットに適切に届くようにする。 ● インスタグラム投稿頻度を維持するとともに、地域の事業者や住民の有志である「(仮)青梅・奥多摩情報発信隊」による投稿割合を増やします。投稿KPI100(協議会20:発信隊80)「情報発信隊」新規加入を目的とした、フォトコンテストを開催する。 ＜観光PR動画共同プロモーション＞ ● 地域の事業者や住民の有志である「青梅・奥多摩情報発信隊」が現地で撮影した訪問・体験レポート動画をこまめにアップすることで、次の週末の来訪につながるプロモーションを行う。 ● 訪問・体験レポート動画は、登山・ハイキング、リバーアクティビティ、キャンプ、バーベキュー、フィッシングなど、テーマ別に取りそろえることで、フォロワーの興味・関心に沿って選択できるようにする。 【目標】 ①インスタグラムのフォロワー数2,500人増(延べ10,500人) ②インスタグラム投稿数100回 ③青梅市、奥多摩町観光案内所および御岳インフォメーションセンターの年間来所者数 前年比1.15倍